

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	学生生活のウェルビーイングを向上する：学生のニーズと生きのびるコツの可視化				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	津富 宏
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・学生	氏名	石川 麻衣
		所属・職名	国際関係学部・学生	氏名	根本 未来
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	津富 宏

講演題目	学生生活のウェルビーイングを向上する：学生のニーズと生きのびるコツの可視化
------	---------------------------------------

**研究の目的、成果及び今後の展望**

目的： 学生のニーズと学生が生きのびるために用いているコツを可視化して、学生の生活のウェルビーイングを高めるための共有知を把握し、この共有知をもとに提案をまとめることである。以下の二つのテーマ（分野）を設けた

分野1 人間関係の持ち方・育て方のさまざまなコツの可視化  
 大学生活、ひいては、人生の充実度が人間関係にあることはよく知られている。分野1は、人間関係の持ち方・広げ方のコツを可視化して、学生間で共有可能なものとし、大学生活のウェルビーイングの向上や、卒業後の暮らし（キャリア形成やメンタルヘルスの維持）にとっても有用な影響をもたらすことを目的とする。

分野2 困窮状況にある学生のニーズとコーピングの実情の可視化  
 コロナ禍は、少なくない学生が経済的困窮や社会的孤立状態にあることを明るみに出した。分野2では、困窮状況にある学生が、いかにコロナ禍を乗り越えたかをヒアリングすることを通じて、こうした学生のニーズとコーピングの実情を把握し、こうした学生が「生きのびる」ために必要な支援とノウハウを把握することを目的とする。

成果： （分野1については3月19日現在、取りまとめ中であるので、分野2について述べる）  
 学内において、たべものカフェを実施している「学生ボランティアセンター」の協力を得て、ファシリテーションについて学んでいる「ファシリテーション同好会」が、たべものカフェを利用したことがある3名の学生に参加してもらい、「コロナ禍を通じて学んだこと」というテーマで、ワークショップを実施した。学生たちからは、「慣れないことだらけで不安が大きかった」、「不安なことを相談できなかった」、「友達ができなかった/遊べなかった/困ったことがあっても頼れる人がいなかった」、「人とのかわりが減ってしまっさみしかった/つまらなかった」というマイナスの声に加えて、「熱中できるものがあって救われた」、「人とのつながり、自ら行動して、元気を取り戻した」、「自分と向き合う時間が増えたことで新しい自分をみつけた」といった声があった。こうした声を踏まえ、①定期的なアンケート実施と支援への橋渡し、②学生の交流機会の提供、③一人でも落ち着ける場所の提供などを提言する。

展望： 上記の成果は、冊子として取りまとめ、学生（特に新入生）に頒布する予定である。こうした知見を活かして、本学の学生の学生生活の向上に役立てたい。